

こつこつプロジェクト第二期 作品決定！

7ストーリーズ

作 モーリス・パニッチ
翻訳 福山桜子



演出 福山桜子
ふくやま・さくらこ

日本においてデヴィッド・ルヴォー、三谷幸喜作品などに演出スタッフとして参加後、渡米。ニューヨーク・オフ・ブロードウェイや映像作品などで脚本、演出に携わり、2000年以降、石岡瑛子をはじめ世界的に著名なクリエイターのスタッフとして活動。現在は、舞台・映画・PV映像等の演出・脚本を手掛けている。近年の主な作品：『Fate/Grand Order THE STAGE-冠位時間神殿ソロモン』（20年/脚本・演出・作詞/東京国際フォーラム・ホールC、他）、『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』（19年/訳・演出/主演：浦井健治/東京EX THEATER ROPPONGI & ZeppTokyo、他）、多数の舞台、映画、映像作品に携わる。

テーバイ

原作 ソフォクレス
（『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』『アンティゴネ』より）
構成 船岩祐太



演出 船岩祐太
ふないわ・ゆうた

桐朋学園芸術短期大学芸術科演劇専攻卒業。地人会の木村光一氏、演劇企画集団THE・ガジラの鐘下辰男氏に師事。また小劇場から商業演劇まで様々な作品に演出助手、演出部として参加。2007年に演劇集団砂地を結成。演劇集団砂地では古典戯曲を原典とした作品を中心に発表。主な作品に演劇集団砂地『Disk』（世田谷ネクストジェネレーション）『アトレウス』、『楡の木陰の欲望』『胎内』など。

夜の道づれ

作 三好十郎



演出 柳沼昭徳
やぎぬま・あきのり

近畿大学在学中の1999年に「烏丸ストロークロック」を旗揚げ、京都を拠点に国内各地で演劇活動を行う。作品のモチーフとなる地域での取材やフィールドワークを元に短編作品を重ね、数年かけて長編作品へと昇華させていく創作スタイルが評価されている。2015年京都芸術センター主催演劇計画II『新・内山』にて第60回岸田國土戯曲賞にノミネートされる。18年、20年と東京芸術劇場芸劇eyesにて『まほろばの景』シリーズを上演、話題を呼ぶ。平成28年度京都市芸術新人賞受賞。

こつこつ新聞



こつこつ新聞とは

「作り手が、通常の1か月の稽古ではできないことを試し、作り、壊して、また作る場にした。」という小川演劇芸術監督の意を受け、一年間を通して作品を育てていく「こつこつプロジェクト」。こつこつ新聞では、その活動をご報告します。第2号は、2021年4月より開始した第二期についてです。

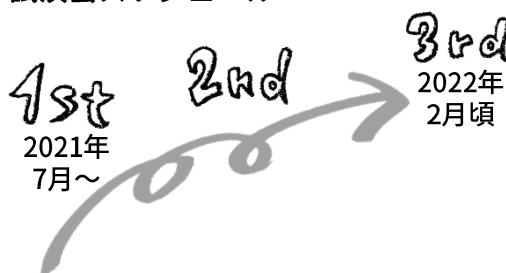


制作担当レポート

「こつこつプロジェクト」第二期参加演出家について、ホームページ等でお知らせしていましたが、それぞれが「こつこつ」する作品も出揃いました。福山桜子の『7ストーリーズ』はカナダ

の現代作家、パニッチの戯曲、船岩祐太の『テーバイ』はギリシャ悲劇を船岩自身が再構成した作品、柳沼昭徳の『夜の道づれ』は日本の近代古典戯曲と、今回も三者三様の作品選定となりました。早いチームは4月から「こつこつ」し始めており、7月以降には3チームが、それぞれのタイミングで1stとと呼ばれる試演会を迎えます。時間の制約に捕らわれない舞台創りを目指し、今後、2nd、3rdの試演会を経て、作品の方向性や展望を模索していきます。新たな「こつこつプロジェクト」に、ご期待ください。

試演会スケジュール



一年間、3~4か月ごとに試演を実施し、その都度演出家・芸術監督・制作スタッフが協議を重ね、作品の方向性や展望を見極めていきます。



テーブル稽古にて戯曲への理解を全員で確認し合う。『テーバイ』の稽古風景Ⅱ6月某日、新国立劇場稽古場



地図を見ながら戯曲の設定・場所について検証している。『夜の道づれ』の稽古風景Ⅱ7月某日、新国立劇場稽古場



最新情報はウェブで！